

Fuji Champion Race Series Round 4

2020.12.12 SAT - 13 SUN

ROADSTER CUP
1.5/1.6/1.8/2.0
Round 2



富士チャンピオンレース第4戦、最初のレースはロードスターカップ第2戦。台風で中止になった富士チャンピオンレース第2戦に組み込まれていたが、今回のチャンピオンレース第4戦がワンディ開催をツーディに変更して土曜日に予選・決勝を組み込んだ。気温は8度、路面温度9度といったコンディションの中、朝10:10より20分間の公式予選が行われた。ポールポジションを獲得したのはRSC2.0OPクラス#5 JoyアクレMoty'sEA 山崎善健 2'08.291。2番手にはRSC1.8クラス #91 samsuロードスター 神谷誠が2'09.928で並ぶ。RSC2.0クラスのトップは総合4番手で#77 NDSエンジニアリング 長岡哲也2'10.468、RSC1.6は総合9番手で#53 ガレージ

SIVARロードスター 水野寿通 2'11.362。RSC2.0CHクラスは総合13番手#8 ド☆ライダーロードスター 菊池聡 2'12.276。RSC1.5CHクラスは#20 SYMS楡クリロードスター 五賀貴男 2'13.632。決勝レースでは各マシンがグリッドに並ぶ頃、気温12度・路面温度16.5度となり、晴れて風も穏やかでこの時期としては暖かい天候の中でのスタートとなった。13:25スタートが切れ、スタート直後のTGRコーナーでは先頭集団はほぼ予選の順位通りに綺麗な隊列でできてゆく。ポールの#5 山崎がトップを守りオープングラップを戻ってくる。その後は等間隔に各マシンが通過していき、そのまま周回を重ねるが、4周目あたりから各クラス入り乱れて、2番手争いの4台、その後ろで6番手争いの3台のバトルが繰り広げられた。8週の決勝レースは#5 山崎がポールトゥウィンで総合優勝。2位には1.8クラス優勝の#91神谷という結果になった。

各クラスの優勝ドライバーはレース後、1.6#53 水野「スタートはちょっと失敗してしまいましたが、逃げ切れました」1.8#91 神谷「シリーズポイントが有利だったので、ミスをしたくないように走ることを心掛けました」1.5OP#7 茂木「スタートも上手くいったので、神谷さんのスリップについて引っ張って行ってもらいました」1.5CH#20 五賀「後半では同じクラスのマシンを引き離れたんだけど、シリーズチャンピオンには届かずまた2位でした。来シーズンはチャンピオン目指して頑張ります」2.0CH#5山崎「澤さんにもたくさん教わり、良いマシンを作ってくれたショップの皆様、上手くまわって優勝もできたしこれでシリーズチャンピオンも取れました」2.0CH#8 菊池「勝たなきゃいけないところで勝って嬉しい！」



Winner



RESULT リザルト RSC2.0 O

Rank No.	Name
1	5 山崎 善健
2	77 長岡 哲也



Winner



RESULT リザルト RSC2.0 C

Rank No.	Name
1	8 菊池 聡
2	50 藤澤 卓也



Winner



RESULT リザルト RSC1.5 O

Rank No.	Name
1	7 茂木 文明
2	79 杉浦 良



Winner



2nd



3rd



RESULT リザルト RSC1.5 C

Rank No.	Name
1	20 五賀 貴男
2	28 河野 元基
3	14 小倉 徹
4	38 中村 進
5	78 赤石沢 清人
6	17 ヤンコバ



Winner



2nd



3rd



RESULT リザルト RSC1.6

Rank No.	Name
1	53 水野 寿通
2	34 竹田 幸一郎
3	27 野木 強



Winner



2nd



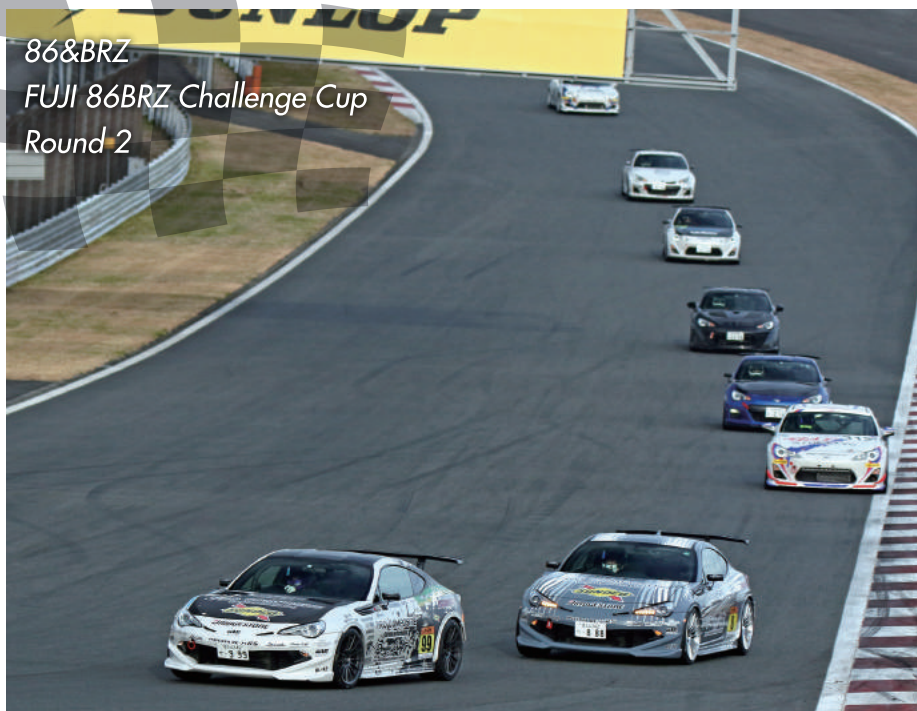
3rd



RESULT リザルト RSC1.8

Rank No.	Name
1	91 神谷 誠
2	2 渡邊 達也
3	18 小林 哲男
4	15 中村 英貴
5	88 山田 健介
6	12 植松 公彦

86&BRZ FUJI 86BRZ Challenge Cup Round 2

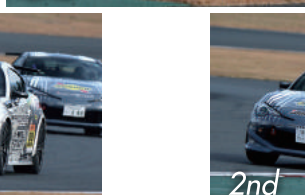
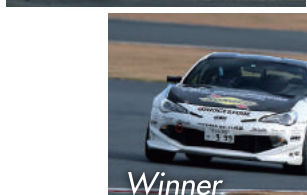


86&BRZ/富士86BRZチャレンジカップは土曜日に予選・決勝が行なわれ、ここまでのポイントリーダーは#53 86Racer's土山号 土山哲史の27ポイント、そこに第1戦優勝の#47 落合立成と第2戦優勝の#312埼玉自動車大学校MS86松本晴彦が20ポイント。この最終戦に#47落合がエントリーしていないため、#53土山が2位以上でチャンピオンが決まるという状況の中でレースが行われた。予選ではチャレンジカップJP-2Rクラスの#99 プロコンポジットBLITZ86 小野田貴俊が1'59.314のコースレコードで更新で総合トップ。2番手にはこちらもレコード更新のJP-2R #8 パワークラフトBLITZ86 古田聡 1'59.498。3番手にはこちらもレコードも更新した#312 松本が2'01.215で86&BRZクラスのトップとなった。予定通り14:40に決勝スタートがきられ、トップがらスタートの#99小野田と#8 古田が徐々に3番手以下を引き離していき、トップ2台は等間隔のまま

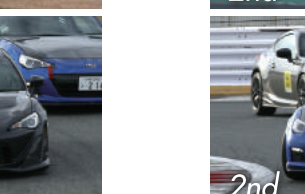
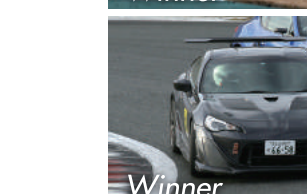
周回を重ねていく。3位争いは前半から熱いバトル繰り広げられていたが、そんな中でシリーズチャンピオンがかかっていた#53 土山がマシントラブルで4周目にピットへ戻ってしまう。その後は 予選総合5番手だったJP-2Sクラス#33 BoxRacing灰86 関篤人が7周目に総合3番手まで上がり10週の決勝は#99小野田、#8古田、#33関、#312松本の順でチェッカーを受けた。レース後のドライバー達は、#99小野田「前回、古田さんに負けたリベンジが出来ました。良いマシンのおかげです」#33関「バトル楽しかった！さすがの松本さんなので、マシンの差がわかっていて最後までクリーンに楽しめました」#312松本「とりあえず勝てて良かった。生徒たちが勉強のために作っているマシンなのでさらにやる気も出るかと思います」と語った。



RESULT リザルト 86&BRZ	
Rank No.	Name
1	312 松本 晴彦
2	57 森田 幸二郎
3	50 鳥羽 豊
4	222 松下 浩平



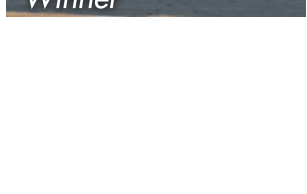
RESULT リザルト Fuji 86BRZ Challenge Cup 2R	
Rank No.	Name
1	99 小野田 貴俊
2	8 古田 聡



RESULT リザルト Fuji 86BRZ Challenge Cup 2S	
Rank No.	Name
1	33 関 篤人
2	16 石川 賢志



RESULT リザルト Fuji 86BRZ Challenge Cup 3S	
Rank No.	Name
1	44 咲川 めり
2	1 木幡 修一郎
3	72 堀 舜之



RESULT リザルト Fuji 86BRZ Challenge Cup 4S	
Rank No.	Name
1	904 青柳 貴明

MINI CHALLENGE.JAPAN Round 9 & 10



スポーツランドSUGO、ツインリンクもてぎ、岡山国際サーキットと各地を転戦してきた今シーズンのMINI CHALLENGE.JAPANも今回の第9&10戦が最終戦になっている。日曜日に予選と2回の決勝が行われる。予選でトップタイムを出したのは、JCWクラスにスポット参戦してきている#9 IDI F56JCW 三浦愛 1'58.467。CPSクラスは総合4番手のタイムで#6 PAZZOARIIXクーバー S 伊藤聡夫 2'06.313のコースレコード更新でトップからのスタート。第9戦決勝は、#9三浦がスタートから首位を守る、その後ろではオープニングラップから2番手争いの#7 DGMS F56JCW 石井一輝と#17 BRP★MINI F56JCW 鈴木健自のバトルが続く。CPSクラスでは2番手から1周目にトップに立った#377 D.D.R MINI N-zero 瀧井厚志が周回を重ねるごとに後続との差を広げていく。12週の決勝は総合優勝が#9 三浦、CPSクラスでは#377瀧井がトップでチェッカーを受けた。レース後の優勝ドライバーコメント#9 三浦「スポット参戦ですが

、走ってみてタイム的に勝てるはずだったので、落ち着いて臨めました。途中からパワステの調子が悪くなり体力的に疲れましたが、これも良いトレーニングになりますね」#337 瀧井「1～2周目はきつかったですが、後ろが競ってくれたので逃げ切れてほっとしています」第10戦は、第9戦の決勝結果のリバースグリッドからのスタートとなっている。ここでも好スタートでトップに躍り出た#9 三浦がオープニングラップでトップに立ち、その後も安定した走りで周回を重ねていく。CPSクラスは第9戦優勝の#337 瀧井が徐々に順位を上げ、7周目のダンロップコーナーでトップに立ち、その後は徐々に後続を引き離しにかけりトップでチェッカーを受けた。レース後#9三浦は「パワステの調子がまだ悪いのですが、走り方を変えて対応しました。年内はこれが最後のレースなので最後まで安定して走ることができて良かったです」#337瀧井「大変でしたが、皆様紳士的なバトルで安心して走れました」とコメントした。

Round 9



RESULT リザルト JCW	
Rank No.	Name
1	9 三浦 愛
2	17 鈴木 建自
3	57 阿部 良太



RESULT リザルト Cooper S	
Rank No.	Name
1	337 瀧井 厚志
2	30 白戸 次郎
3	77 古田 聡
4	70 増田 直人
5	56 森 雄一郎
6	11 笹 瑞穂

Round 10



RESULT リザルト JCW	
Rank No.	Name
1	9 三浦 愛
2	7 石井 一輝
3	17 鈴木 建自
4	57 阿部 良太



RESULT リザルト Cooper S	
Rank No.	Name
1	337 瀧井 厚志
2	30 白戸 次郎
3	77 古田 聡
4	70 増田 直人
5	56 森 雄一郎
6	11 笹 瑞穂

N1400/N1000/DEMIO RACE

Audi A1 Fun Cup

Round 1



このカテゴリーも9月の第1戦が台風で中止になったが、この最終戦に2レース開催に変更となった。日曜日に予選と2回の決勝が行われ、予選では第1戦のグリッドを決定する。総合トップでポールポジションとなったのはN1400クラス #3 フジツボミッドランドED82 山田大輔2'09.817。2番手には#5 アネックス内藤板金EP82 水谷明彦 2'10.383。Audi A1では総合7番手で#105 モタガレPlayer! A1 藤井優紀2'13.053。デミオのトップは総合21番手で#34 TR-Factoryデミオ 常盤岳史2'19.241。N1000クラスは総合22番手 #2コルサアンジェ西砂タイヤVItz あおきみのる2'19.675という順になった。決勝ではスタート直後から各クラスの激しいトップ争いが繰り広げられ、4番グリッドから徐々に#72 アレスQSグローバルμ82 高橋ノボルがポジションを上げ、4周目には2番手まで上がるがトップ4台はコンマ差で激しいバトルが続く。しかし、レース後半に

入った5周目の最終コーナー立ち上がりでトップの#3山田がマシントラブルでスローダウン。そのままピットに入ってしまう、トップに立った#72高橋がそのまま守り切りトップでチェッカーを受けた。Audi A1は前半こそトップ争いのバトルがあったものの、中盤以降は#105 藤井が徐々に2位以下と差を広げ優勝。N1000では最終ラップまでトップ3台がコンマ差での争いが続き、ラストラップで0.4秒差で前に出た#2あおきが優勝した。レース後の各クラス優勝ドライバーのコメントN1400 #72高橋「いつものことながら大変なレースでした。トップに立てたものの、タイヤも使い切っちゃっていたので」N1000 #2あおき「こんな中でもレースを開催してくれたサーキットやチームの皆に感謝です！楽しかった！」デミオ「#34常盤「昨年の最終戦以来このデミオに乗りました」Audi A1 #105藤井「後ろで競いだしてくれたので逃げ切れました。まだ1レースあるので無事に終わって満足です」



RESULT リザルト N1400

Rank No.	Name
1	72 高橋 ノボル
2	5 水谷 明彦
3	26 斎藤 和実
4	8 市瀬 寛之
5	92 勝間田 邦彦
6	44 三宅 泰正



RESULT リザルト N1000

Rank No.	Name
1	2 あおき みのる
2	25 赤堀 康裕
3	32 大石 進哉
4	312 木村 洋輝
5	27 中村 直樹
6	66 入江 慧士



RESULT リザルト Audi A1 Fun Cup

Rank No.	Name
1	105 藤井 優紀
2	109 阿野 雅樹
3	107 阿野 雄紀
4	112 イシカワ ヨシオ
5	103 橋本 泰一
6	106 武尾 幸子



RESULT リザルト DEMIO RACE

Rank No.	Name
1	34 常盤 岳史
2	98 五十嵐 涼

N1400/N1000/DEMIO RACE

Audi A1 Fun Cup

Round 2



第1戦終了から約2時間後に第2戦の決勝が行われ、第1戦決勝中のベストラップでスターティンググリッドが決定された。ポールポジションは第1戦総合優勝のN1400 #72 アレスQSグローバム82 高橋ノボル。2番手には#5 アネックス内藤板金EP82 水谷明彦は並ぶ。Audi A1は第1戦優勝の#105 モタガレPlayer! A1藤井 優紀が総合5番手からのスタート。N1000では第1戦2位だった#25 峡南高等技術専門学校ヴィッツ 赤堀康裕が総合21番手でクラストップからのスタート。デミオは総合23番手の#34 TR-Factryデミオ 常盤岳史。決勝はスタート直後から激しい戦いが繰り広げられ、オープニングラップを戻ってくると、N1400クラス全6台がコンマ差でコントロールラインを抜けていく。Audi A1は#105藤井が後続を少し離して戻り、N1000もトップ4台が団子状態。予選をマシントラブルにより第1戦を最後尾スタートとなりながら、追い上げをみせた#21

NUTEC・DLμスターレット 大竹直が3周目にトップに立つも5周目には#3 山田がトップに。6周目にまた#21 大竹が奪い返すと、最後までトップ3台がバトルを繰り広げたが10周の決勝は#21大竹がトップチェッカーを受ける。Audi A1は#105藤井が逃げ切った。N1000のバトルを制したのは#25 赤堀。デミオは#34常盤が2連勝した。レース後の各クラス優勝ドライバーはレース後、N1400 #21大竹「金曜日には問題無く走ってくれていたんだけど、今朝いきなりトラブル。でも第2戦ではご機嫌が治ってくれて最終戦を締めくくれました」N1000 #25赤堀「Audiクラスのマシンが絡んでくれたので、展開が有利になり勝つことができて良かったです」Audi A1#105藤井「無事にトップで帰りました。シーズンを通して一度も調子悪くならなくて、さすが良いマシンだなと」デミオ#34常盤「第2戦は守りに入りすぎちゃいました」と語った



RESULT リザルト N1400

Rank No.	Name
1	21 大竹 直
2	72 高橋 ノボル
3	3 山田 大輔
4	26 斎藤 和実
5	44 三宅 泰正
6	92 勝間田 邦彦



RESULT リザルト N1000

Rank No.	Name
1	25 赤堀 康裕
2	312 木村 洋輝
3	2 あおき みのる
4	32 大石 進哉
5	27 中村 直樹



RESULT リザルト Audi A1 Fun Cup

Rank No.	Name
1	105 藤井 優紀
2	107 阿野 雄紀
3	109 阿野 雅樹
4	101 斉藤 浩徳
5	106 武尾 幸子
6	103 橋本 泰一



RESULT リザルト DEMIO RACE

Rank No.	Name
1	34 常盤 岳史
2	98 五十嵐 涼

TOYOTA GAZOO Racing
Net Cup Vitz Race
Grand Final



2000年に始まった日本初ナンバー付き車両によるレース「Net Cup Vitz Race」がこのレースをもって、21年/延べ408戦の歴史に幕を閉じた。名実共にグランドファイナルとなったこのレース、土曜日にはシリーズ表彰なども行われた。全国5地区のシリーズ上位選手15台にシード権が与えられ、シード選手を除く61台によって予備予選が行われ、予選に進めた39台が12:20からの予選へと進んだ。記念すべき最後のポールポジションを決めたのは#200 NAVUL☆GR港名四Vitz 黒川保男 2'16.386。2番手には、#919 ウイニングNUTEC制動屋Vitz 森川なるお 2'16.619。CVTクラストップは#144 ネット東都RCヴィッツCVT 柚木宏一郎 2'21.766となった。決勝ではポールからスタートの#200黒川が背後で激しい2位争いが繰り広げられているのを尻目に徐々にタイム差を広げていく。2周目には4番手スタートだった#74 ネット千葉シュポルトμVitz 松本英之が2番手まで順位を上げるが3周目には予選3番手スタートの#14 ピースMS制動屋VitzGR 水野大が2番手に。その後も激しいバトルが繰り広げられ、10週の決勝は#200 黒田、#74松本、#14水野の順でチェッカーとなった。CVTクラスは#144柚木が逃げ切り優勝した。

レース後の優勝ドライバーコメント

#200黒木「頑張りました！本当に嬉しいです。後ろがやりあってくれたので逃げ切れました」
#144柚木「ずーっと1位になれなかったので、とにかく今回はと頑張りました。これで来シーズンは会社もヤリスにしてくれるかな？」



RESULT リザルト

Rank No.	Name
1	200 黒田 保男
2	74 松本 英之
3	14 水野 大
4	3 CANDY竹川
5	201 松山 雄大
6	107 柿本 一樹

CVT Class



RESULT リザルト CVT

Rank No.	Name
1	144 柚木 宏一郎
2	49 仲村 敏裕
3	510 戸田 和彦
4	100 百瀬 孝仁
5	312 稲垣 之浩